

鉄道駅等のバリアフリー化を取り巻く社会背景

- ・ 高齢者・障がい者の増加、 高齢者・障がい者の外出の増加
- ・ インバウンドの増加、 宿泊者数の増加
- ・ 高齢者・障がい者・子育て世帯の駅バリアフリー化への期待の増加
- ・ 大阪環状線内への駅利用者数・ホテル立地の集中
- ・ 2025年大阪・関西万博の開催等による更なる駅利用者の増加
- ・ 大阪府UD推進指針（平成30年（2018年）6月）の策定

鉄道駅等のバリアフリー化に係る国の動き

交通バリアフリー基準を定める省令改正（平成30年（2018年）3月）

※新設義務、既設努力義務

- ・ バリアフリールートの複数化
- ・ 乗継ぎルートのバリアフリー化
- ・ 旅客施設の利用状況に応じたエレベーターの複数化・大型化

プラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関するとりまとめ

（令和元年（2019年）8月）

- ・ 整備実現に向けての当面の目安値等の提示

バリアフリー法の改正（平成30年（2018年）5月）

- ・ 公共交通事業者等によるハード・ソフト一体的な取組みの推進
- ・ マスタープラン制度の創設や基本構想等の定期的評価・見直しなど取組強化

鉄道駅等のバリアフリー化の現状

駅の1ルート以上のバリアフリー化の状況

- ・ 3千人以上/日の駅は、令和2年度（2020年度）末までに原則達成見通し

可動式ホーム柵の整備状況

- ・ 10万人/日以上駅を優先整備

内方線付き点状ブロックの整備状況

- ・ 1万人以上/日の駅は令和元年度（2019年度）末までに達成見通し

バリアフリー基本構想等の作成状況

- ・ 大阪府バリアフリー基本構想等作成促進指針（平成31年（2019年）3月）に基づき、作成促進
- ・ 32市1町 135地区で作成（平成30年（2018年）年度末現在）

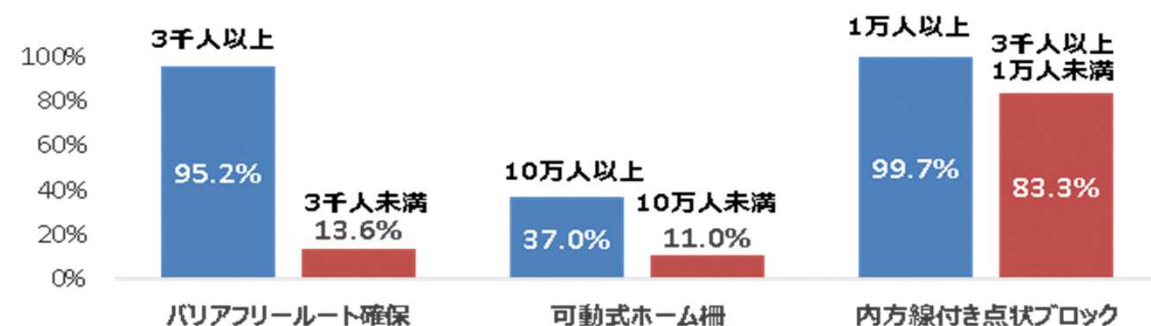


図. 平成30年度（2018年度）末現在の整備率

今後の鉄道駅等のバリアフリー化促進方針

2025年大阪・関西万博とその先の将来を見据え、SDGsやユニバーサルデザイン（UD）の視点に立ち、ハード対策とソフト対策とあわせて、鉄道駅等のバリアフリー化を促進

1. 鉄道駅等の更なるバリアフリー化

1-1 3千人/日以上以上の鉄道駅等の1ルート以上のバリアフリー化【令和2年度（2020年度）】

1-2 UDの視点に立った鉄道駅等の更なるバリアフリー化【令和11年度（2029年度）】

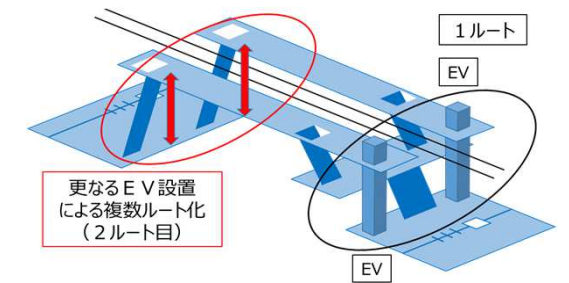
高齢者・障がい者の利用実態、基本構想等作成状況など、地域の実情を踏まえ促進

(ア) バリアフリールートの複数化

(イ) 乗換えルートのバリアフリー化

(ウ) 駅の利用状況を考慮したEVの複数化・大型化

(エ) 3千人/日未満駅の1ルート以上のバリアフリー化



【バリアフリールートの複数化の例】

1-3 万博に向けた鉄道駅等のバリアフリー化【令和6年度（2024年度）】

大阪環状線内の乗換え駅等を中心に、バリアフリー化を促進

2. 駅ホームにおける安全性向上

(1) 可動式ホーム柵の府対応方針（平成30年（2018年）3月）に基づく整備促進

(2) 内方線付き点状ブロックの整備促進

(3) プラットホームと鉄道車両床面の段差・隙間の縮小化促進

(4) 視覚障がい者のエスカレーターへの安全な誘導促進



【可動式ホーム柵】

3. ハード対策にあわせたソフト対策

(1) 駅やまちのバリアフリー情報提供の促進

(2) 駅における案内表示等による取組促進

(3) 駅利用者による声かけ等の促進



【床面整列乗車シート】

4. 駅とまちの面的・一体的なバリアフリー化

「大阪府バリアフリー基本構想等作成促進指針」を踏まえた基本構想等の作成・見直し等の促進